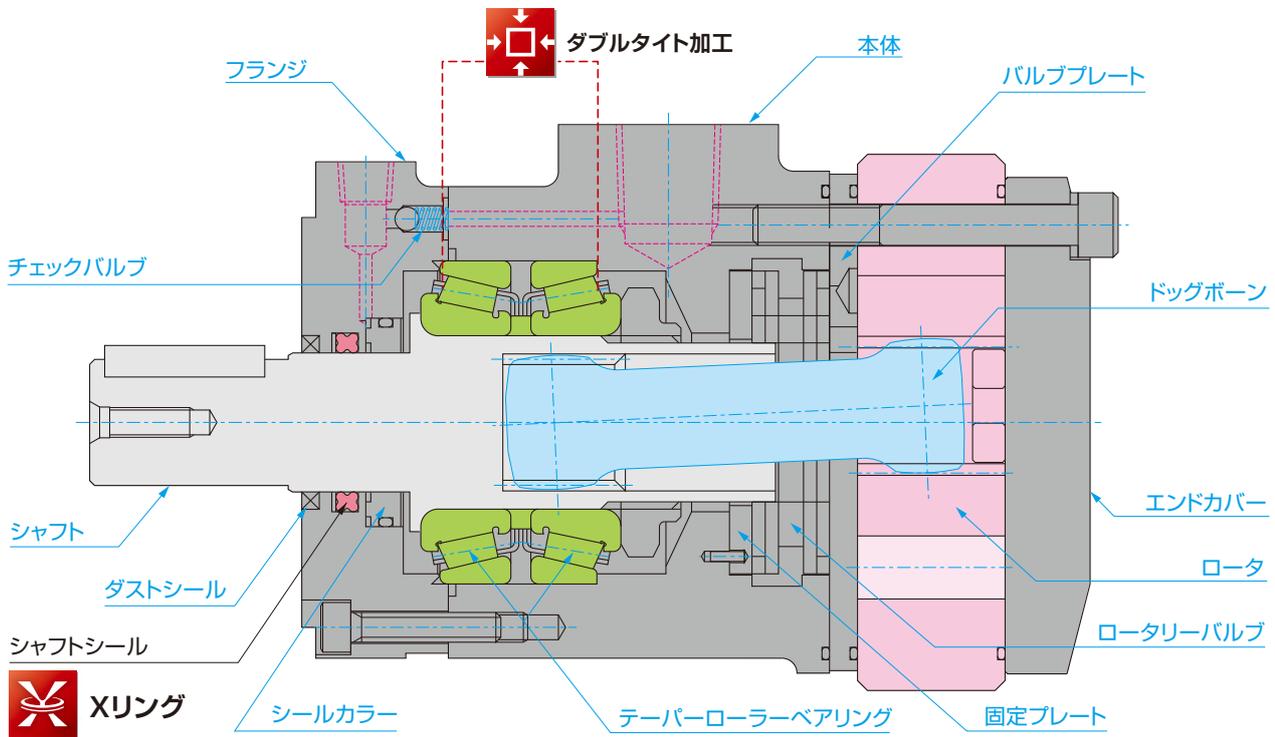
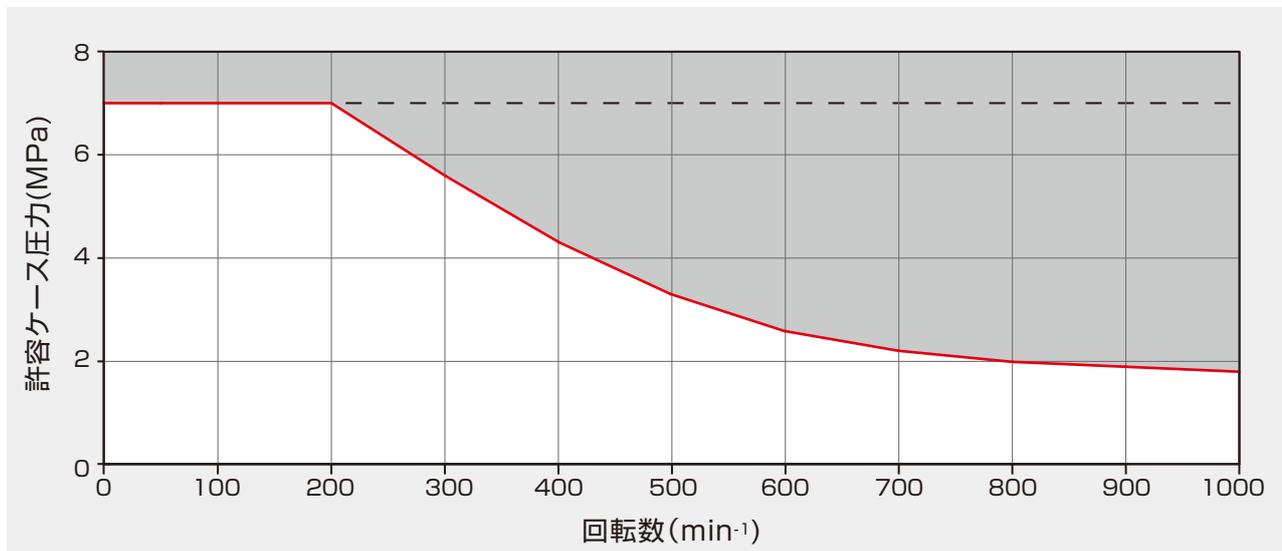


## ■ モータの構造

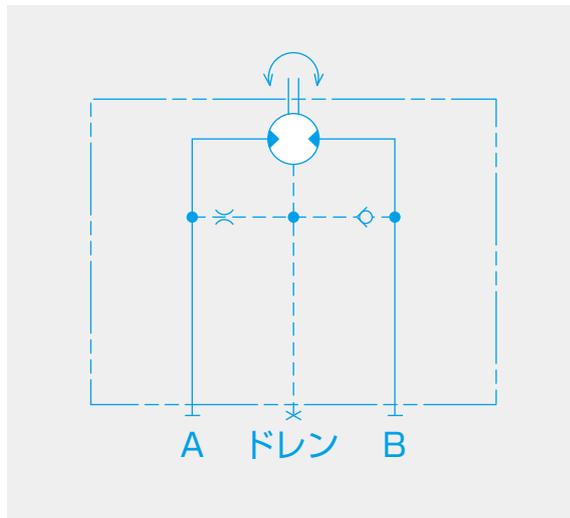


## ■ 許容背圧

- 以下グラフは、各回転数における許容背圧を示します。
- ORB-Sには内部チェックバルブが設けられていますので、モータの背圧(戻り側の圧力)は以下のグラフの値まで許容されます。
- 直列接続の場合、閉回路の場合は、ドレン配管が必要となります。

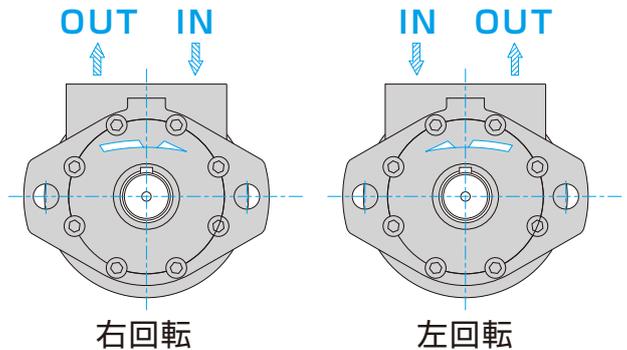


## ■ ORB-Sの回路図



## ■ 回転方向

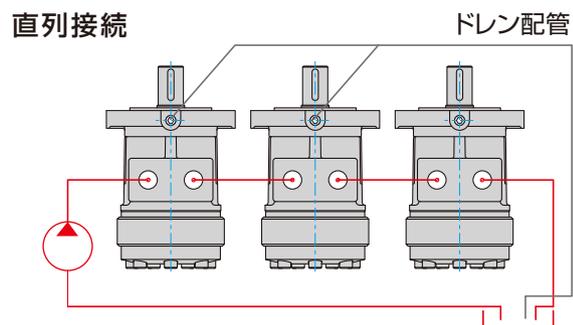
ORB-Sの回転方向は、シャフトを手前に向けて右側ポートを入力とした場合は右回転します。左側ポートを入力とした場合は左回転します。



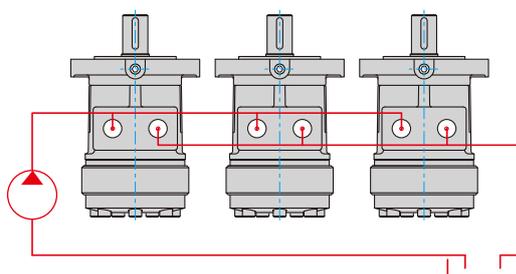
## ■ モータの接続について

直列、並列接続：ORB-Sは、下図のように直列もしくは並列接続で運転することができます。その時に供給される最大圧力は、モータ仕様の最高圧力までセットできます。

但し、連続運転する場合は定格圧力を超えない圧力で使用してください。また、背圧は7MPa以下にしてください。

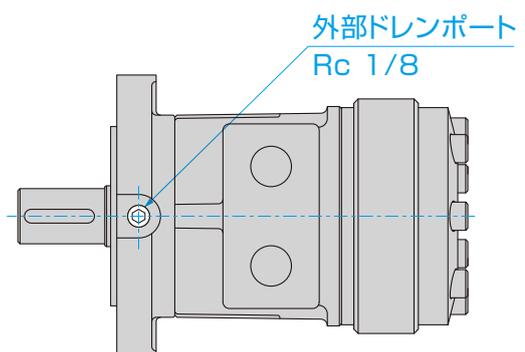


### 並列接続



## ■ ケースドレンが必要な場合

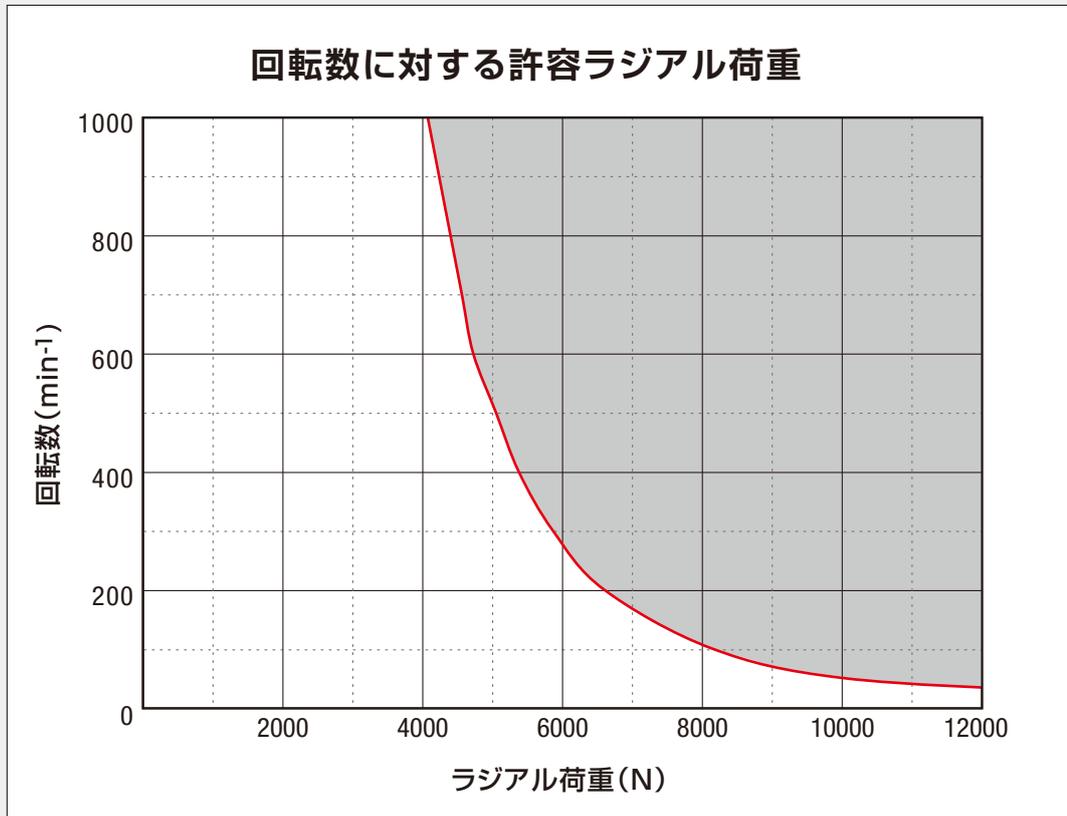
必要に応じて外部ドレンを接続することができます。フランジにある外部ドレン接続用口止めプラグを取り外し、ドレンラインを接続してください。このドレンは連続して接続される使用例（直列接続）のようにモータが高い背圧をうける場合、シャフトシールの寿命を長持ちさせるために用いられるべきものです。



## ■ ベアリングのラジアル荷重特性

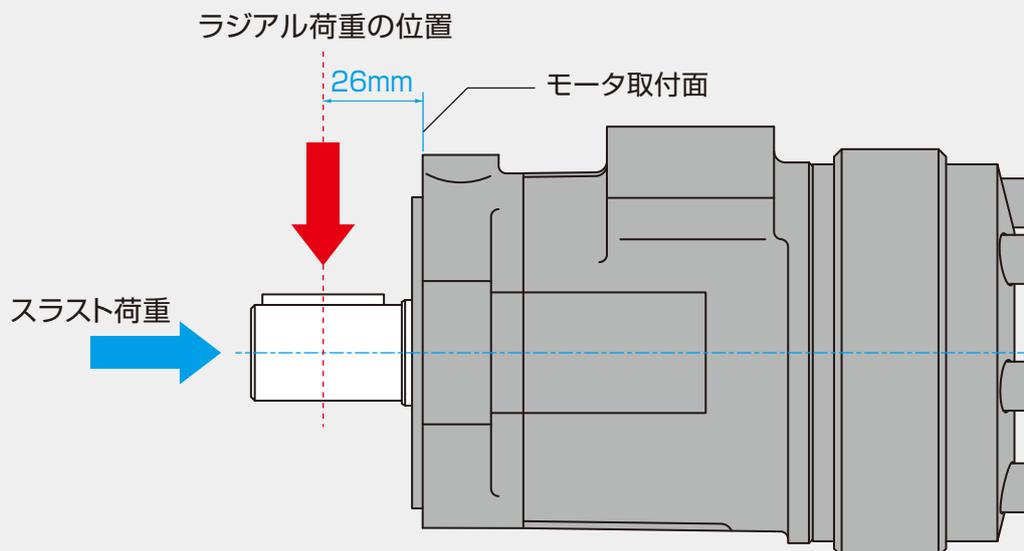
回転数に対する許容ラジアル荷重（ラジアル荷重の位置：取付面から26mmにて）

許容できるラジアル荷重は、モータのその定格トルク内で使用する限りでは、ベルト、チェーンなどのように外部からかかるいかなる荷重を処理するにも十分です。



本ラジアル荷重と同時に5000Nまでのスラスト荷重が許容されます。  
この線図は下図の位置でかかる荷重に基づいたものです。

ラジアル荷重の位置：モータ取付面より26mm



## モータ取付面からの距離に対する許容ラジアル荷重

下の線図は、ラジアル荷重の位置によるORB-Sの許容ラジアル荷重を示しています。線図は $100\text{min}^{-1}$ で2000時間のB-10軸受寿命に基づいたものです。 $100\text{min}^{-1}$ 以外の回転数における許容ラジアル荷重を求めるには、線図の荷重に速度係数を乗じてください。

